



Vol.48

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

イフムケ(子守歌)



子供の頃に聞いた子守歌って覚えて
いますか？子守歌って眠りへの
呪文のようなもの。何度も何度も聞くう
ちに、この歌が聞こえたら寝るものとイン
プットされるんでしょうね。

アイヌの子守歌は、イフムケの他にもイ
フンケやイヌンケ、ユンケ、イオンソッカ、イ
オンルイカと地域によって呼び方もいろい
ろ。子守をするその時々気持ちも歌った
ものが伝えられているの。囃子詞だけで歌
われるものから、「お父さんが交易に行っ
て帰らないのは、よその美しい娘と暮らして
いるからだ」と知っていて、お前は泣くんだろ
う」という子守歌らしからぬもの、「眠りは
水の面からわきあがるものだろうか、それ

とも地面からたちのぼるものだろうか、眠
りの神さま、どうか揺りかごの上に降り
て、静かにこの子を眠らせてください」とい
う文学的なものまでさまざま。

「ハアターハアター」や「アフアー」、
「ホロロー」などの囃子詞を入れながら歌わ
れるものが多く、♪ハアターハアター、ハ
アターハアター、泣かないでホーホー、早く寝
なさいホーホー、泣いているとホーホー、怖い鳥
がホーホー、お前を連れていくよハアターハ
ーホー♪。天井の梁からつり下げられ
る寝かしつけのアイテムのシンタ(ゆりか
ご)に乗り、ゆっくりと揺られながら子守
歌を聞いたら効果は抜群ですよ。



最近のママたちは「だっこ
派」が多いけど、私の世代はま
だおんぶが主流。同じように、かつての
アイヌの人たちもおんぶでした。ただ、
赤ちゃんのお尻を乗せる棒にタラと呼
ばれる紐を結び、額で支えて背負うと
いう独特のおぶい方ですね。

実は私は、タラこそ使わなかったも
の、アイヌの子守歌で子育てをした
のです。トウルシノさんという二風谷の

おばあさんが歌われていた子守歌を、息子
たちをおんぶしながらいつも歌ってました。
日本語に訳すのだいたいこんな内容です。

育ての揺りかごが高い天から降りたよ
揺りかごの中で良い眠りをするなら
神様がお前を立派な人にしてくださるよ
泣かないで眠れ眠れ(後略)

子守歌を口ずさみながら仰ぎ見た、二風
谷の満天の星は一生忘れません。
ところで、多くの子守歌の歌詞の合間に
は、ホロロセという、舌先を震わせて出すル
ールという音が入ります。以前、「ホロロセ
を聞くと、赤ちゃんがよく眠るらしいけど
本当かしら？」と授業で言ったら、即座に
「本当です！」と言い切った女子学生がいま
した。実はトウルシノさんの子守歌の歌詞に
はアイヌ語の様々な文型が含まれるので、



アイヌ語の授業では全
員で覚えるようにして
るのですが、その女子
学生いわく「ホロロセが
難しいので毎晩練習し
てました。すると同じ
部屋のお姉ちゃんがあつ
という間に寝ました」。
寝つきの悪い赤ちゃんで
お悩みのお母さん、どう
ぞお試しください。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。